

都道府県番号	4
都道府県名	宮城県

【 】  
\*重点をおいた観点にチェックすること

学校名及び規模

学校名	高清水町立高清水中学校					
学年	1年	2年	3年	特殊学級	計	教員数
学級数	1	2	2	2	7	16
生徒数	34	53	44	2	133	

研究の概要

(1) 研究主題

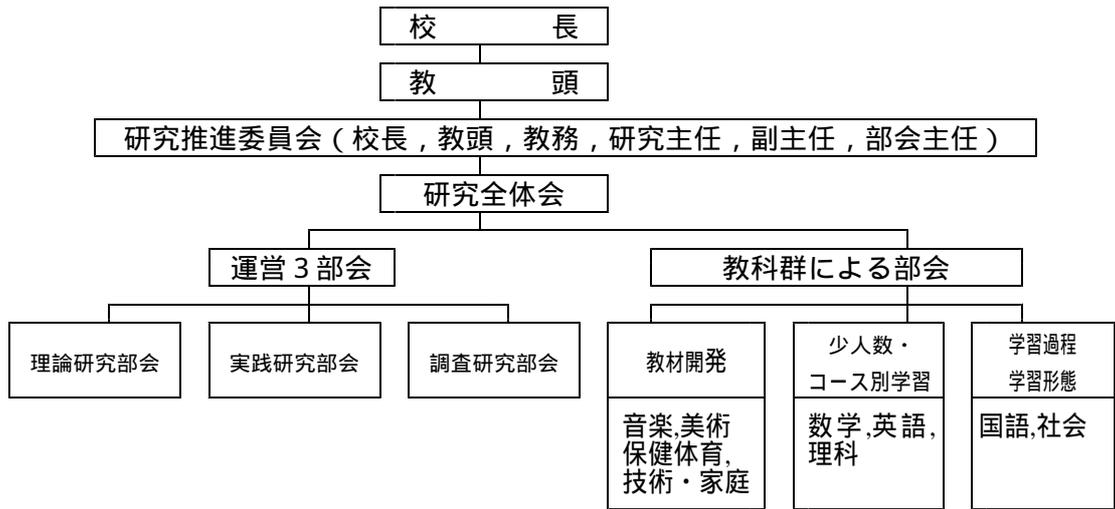
確かな学力の向上を目指した指導の工夫

(2) 研究主題設定の趣旨

21世紀、今後の日本と世界は様々な面でこれまで以上に激しい変化に直面することが予想される。そのような中で、これからの子どもたちに必要となるのは、いかに社会が変化しようと、自分で課題を見つけ、自ら学び、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する資質や能力である。また、自らを律しつつ、他人とともに協調し、他人を思いやる心や感動する心など、豊かな人間性である。さらに、たくましく生きるための健康や体力も不可欠である。つまり「生きる力」である。この「生きる力」を育むために、「生きる力」を「知」の側面から見たものとして、一人一人の生徒が基礎的・基本的な知識や技能だけではなく、学ぶ意欲、思考力、判断力、表現力、問題解決能力などまで含めた「確かな学力」を身につけることが重要と考える。

研究の概要（選択した観点を中心に記述すること）

(1) 研究推進体制の工夫



運営3部会について

- 理論研究部会  
主題等の検討や研究を進める上で必要な文言や定義の検討を行う。
- 実践研究部会  
指導案の様式等の検討、校内授業研究会の運営、放課後の学習会や自主学習ノート等の実践の企画・運営にあたる。
- 調査研究部会

標準学力検査，AAI検査による実態の把握や考察，校内での生徒の実態調査項目の検討，実施，集計及び考察を行う。

教科群による部会

- ・ 主題に迫るため共通の＜取り組み＞を目指す集まり。日々の実践の交流，授業前の指導案の検討や授業後に＜取り組み＞の検証を行う。

(2) 研究の実際

わかる授業を目指した指導の工夫・充実

各教科で目標，テーマ，実践内容を明らかにした。

教科群をつくり検討し合うことで指導の一層の工夫・充実を図る。

ア 教材開発（音楽，美術，保健体育，技術・家庭）

イ 少人数（グループ）指導やコース別学習（数学，英語，理科）

ウ 学習過程，学習形態の工夫（国語，社会）

ねらいを明確にした研究授業（授業を観る観点，授業後の感想等）

学ぶ意欲を高める学習相談

AAI検査と標準学力検査の関連表の作成や生徒アンケートの活用等，実態調査に基づいた，授業での支援や，放課後の学習相談を行うなかで，学習環境の整備や家庭学習の定着，学習への内面的な動機付けを行っている。

AAIと標準学力検査の関連表の活用

<見方>

第 学年 学力検査 - AAI検査 関連表( 学年からの変容)

————— 要学習相談 —————>

		A A I 検査 結果				
		5	4	3	2	1
発展学習 基礎基本	学力検査結果	5	A			
		4		A		
		3		B	-> B	
		2				
		1				

Aの生徒は前年と比較しAAI検査及び学力検査とも4-4段階から5-5の段階へ向上している。

Bの生徒はAAI検査の結果が4から3の段階へ変化している。

<指導に対する一般的な考え方>

AAI検査の結果が低い生徒に対しては実態を把握し相談にのる必要がある。

各生徒の学力検査の結果によって基礎基本の定着や発展的な学習の支援にあたる。

学習習慣に関するアンケートの活用

様々な学びを保障する学習機会の充実

個々の生徒の実態に応じた学習の支援や，学習習慣の定着を図るための試みを以下のように企画し実践してきた。

朝読書

朝のスタートと同時に，全校生徒が一斉に本を読むという試みで，本校での取り組みは6年目を迎えている。各教室に学級文庫を設置するなどの工夫により，読書を好む生徒も多くなり，一時間目の授業にも落ち着きが見られるなど，活動は定着してきている。

学力向上勉強会

毎週木曜日の放課後を基本として，つまずきの発見や課題の解決を目指し勉強会を行っている。アンケート結果や学力検査の実態から数学の補充学習が必要と考え，今年度は数学1教科に絞って実践をしている。

担当が学習シートを準備し生徒が各自が取り組む。自己解答し，わからないところについては担当教師に質問し解決する。また，どのシートまで進んだかを学習進度表に記入する。

自主学習ノート

毎日1ページ以上を目標に自主的な学習習慣の確立のために取り組ませている。

る。ノ - トの中にアドバイスやコメントを行う等、指導・支援している。

#### 学習習慣の形成

学力の向上には学習習慣の定着が必要と考え、全学級・全教科で以下のような取り組みを行っている。

学習の進め方についての資料の作成と指導

学期はじめに各教科の学習方法についてのガイダンス資料を作成し、指導すると共に保護者への理解を図った。

学習の約束事についての学級掲示資料の作成と指導

研究だより「フロンティア」を通じた啓発

学校での取り組みを紹介するため、研究だより「フロンティア」を発行している。自主学習ノートの取り組みや、学習習慣の見直し、各教科からのアドバイス等の紹介を行っている。

### (3) 研究の成果と課題

#### <成果>

- 研究初年度に評価規準の見直しと、観点別評価や評定への総括についての研修を行い共通理解を図り、それを基に、各教科で実践、評価を行った。今年度は更に、教科群を組織し、グループで研究の進め方や授業について検討する場を設けるとともに、学力観をもとに授業のねらいを明確にしたり、授業を見る観点を明確にしたことで、研究授業やその後の話し合いでは視点を明確にした授業や話し合いがなされた。これらのことを通し、学力の実態の一面の把握がしやすくなったと共に、授業が改善され、標準学力検査の評定平均値を前年度と比較してみると2年生で0.4ポイント、3年生で0.1ポイント向上している。また、<学ぼうとする力(関心・意欲・態度)>が1学期と比較し1年生で5ポイント、2年生で38ポイント改善されるなど向上している。

(中間報告書の資料1, 2参照)

- AAI検査の結果や、アンケート結果を通し、授業や放課後の学習相談を通し学習への内面的な動機付けや学習環境の整備を行った。また、授業での支援を行った。これらにより、進んで学習する生徒が5月の調査と比較すると10%増加し、全体で68%になっている等、学習意欲の向上が見られる。

(中間報告書の資料3, 4参照)

- 研究だより「フロンティア」を通じ家庭へのはたらきかけを行った。「学校だより」や「学年だより」等と共に、学校での実践に対して理解されてきている。

#### <課題>

- 全教科で取り組むため、それぞれの教科で学力観を明らかにし実践を進めてきた。それを固定化することなく今後研修を深めることにより、教科の目標や本校の生徒の実態を反映した「教科のテーマ」「実践内容」等の改善と実践の深化が必要である。
- 実践群での活動を通し、実践交流や効果的な指導の改善を図りたい。
- 各種の実態の把握を進め学習相談にあたってきたが、今後は、各担当が行ってきた実践の交流や検討を図ることにより、より充実した相談体制を整え、生徒の学習基盤を築きたい。
- 放課後の学習会や自主学習ノートへの指導等、補充学習や発展学習への支援を行っているが、あくまで授業を中心とした主体的な学習への支援であることを念頭に、教科学習との連携を図ることで、より効果が上がると思われる。
- 学習を支える基盤として、基本的な生活習慣や学習習慣が大切なことを確認し、今後は全職員がそのことを理解し、共通実践を図ることで、より向上させていきたい。
- 教師の自覚と実践の変化により、生徒の学習に対する意識が良い方向に変容していることや、学力の向上が各種の調査から見られる。今後なお一層実践の検討・改善を図り学力の向上を育んでいきたい。

### (4) 研究成果の普及の方策

- ホームページの作成(1月末完成)、「2年次のまとめ」の作成(2月中完成)を通して、成果を普及する。
- 教育課程研修会(登米・栗原地区)での実践報告を通して成果を普及する。
- 教育セミナー(2月21日)での実践報告を通して成果を普及する。

### (5) その他(その他特色ある取組等がある場合に記述)

特になし

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- 【新規校・継続校】       15年度からの新規校       14年度からの継続校
- 【学校規模】               3学級以下                       4～6学級  
                                  7～9学級                       10～12学級  
                                  13～15学級                     16学級以上
- 【指導体制】               少人数指導                       T・Tによる指導  
                                  その他
- 【研究教科】               国語                       社会                       数学                       理科  
                                  外国語                     音楽                       美術                       技術・家庭  
                                  保健体育                   その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】       有       無

【特色ある取組事例として紹介したいポイント】

小規模校ということもあり、複数で授業について話し合う場として共通の実践毎の教科群を組織した。

「わかる授業」を中心にそれを支えるものとして「学習相談」と「学習機会の充実」を位置つけた。

AAI検査と標準学力検査の相関表を用いて実態の把握と支援を行った。